

## 創立10周年と日本透析医会雑誌

新年おめでとうございます。皆様にはご健勝にて良い年をお迎えのことと存じます。今年もよろしく申し上げます。

去る11月16日に東京・全共連ビルにおいて社団法人日本透析医会の創立10周年記念大会が開催され、『21世紀への提言—長期生存とQOL—』のテーマで記念シンポジウムが行われました。優れた発表と熱心な討議は10周年を記念するのにふさわしい内容であったかと思えます。これも会員の皆様、とくに当日参加して下さった皆様のおかげと心から感謝申し上げます。透析医会は創立10周年を経て11年目に入り、同時に透析医療は21世紀に入ろうとしているわけで、透析医会の今後の責務が重く感ぜられます。

シンポジウムの内容については改めて日本透析医会雑誌に報告されますが、透析患者の長期生存とQOLや、介護問題、社会保障、社会復帰などの社会問題について、それぞれの専門的見地から深く掘り下げられ、追求されました。そして、現在の透析療法の問題点、そのあり方や今後の方向などが具体的に示され、誠に有意義なシンポジウムでありました。

わが国の透析患者は年々高齢化し、同時に長期透析患者が増加していますが、それとともに各種の合併症が出現し、患者のQOLが低下して問題になっております。また、介護、社会福祉などの社会的問題が多く発生し、これらへの適切な対策が焦眉の急となっております。この場合に最も望ましいのは、合併症が生じないような対策を確立することで、そのための研究をさらに進めることでしょう。しかし、すでに合併症が生じている場合には、これを治療するとともに派生する社会的問題にも対応することになるかと思えます。先日のシンポジウムではこれらの問題をとりあげて検討したのでした。

このような問題を追求することが透析医会にとって非常に大切であることは言うまでもありません。そしてシンポジウムはこのために非常に有用な方法であります。しかし、これ以外のもう一つの方法として、これと並行して『日本透析医会雑誌』を用いることも考えられて良いのではないのでしょうか。つまり、遠距離でなかなかこのような機会に出席できない多くの会員のために、透析医会雑誌を利用しようとするものです。そのためには先ずこの雑誌が上述した目的にかなうような内容になるべきでしょう。今回のシンポジウムだけでなく、これまで行われてきた春のセミナー、秋のシンポジウムなどについても、なかなか多数の会員が出席できないのが実情ですが、透析医会雑誌のあり方として、これらの内容を詳細かつ具体的に雑誌に載せるとともに、これらについて誌上で意見交換が出来るような方法、例えば“Letter to Editor”のような欄を設けるのはいかがでしょうか。この方法によって、それぞれの論文の主張点や問題点をより深く理解することができるものと思われれます。また、全国の各支部、各施設で行われている新しい試みや研究についても、その成果を論文として掲載していただくと、同様に各自が広く新知見を得るだけでなく、上述した場合と同様に誌上で討議が出来るかと思えます。各支部の研究會誌などにすでに発表された論文を転載させていただくことも同様の意味で有意義と云えます。このような方法により、各自が抱えている難しい医学的あるいは社会的問題に対して、何か解決の糸口を見出すことができるのではないかと思います。

現在、透析医療制度、とくに保険制度では難しい問題が山積みにされており、多くの困難と矛盾を抱えております。『とても良質の透析医療の追求どころではない』という声も聞こえてきますが、やはり目前にある諸問題について研究や検討を行い、少しでも改善への努力をするのが第一歩ではないのでしょうか。地味ではありますが、これらの努力はやがて社会からの理解や評価が得られ、現在抱えている諸問題に対する突破口の一助ともなるのではないかと思います。

平成10年1月1日

社団法人 日本透析医会  
副会長 飯田 喜俊